

農業に
懸ける
情熱

【周囲に先駆けて水稲直播栽培に挑戦】

母の泰子さんと従業員の3人で約45%の農地に水稲や小麦、大豆を栽培しています。

水稲は直播栽培を行っており、約10年前から周囲に先駆けて始めました。初めは肥料の選定や、栽培に適した除草剤の量が分からず、目標収量に届かないこともありましたが、青年部でできた仲間や同じ地域で水稲直播栽培をしている農業者と情報共有をすることで栽培技術の向上につながり、安定した収量を確保できるようになりました。

現在は、さらなる大規模経営に向けてスマート農業を活用した農業に取り組んでいます。



「省力化を目指して最先端技術を導入」

「青年部に所属していたことで、同支部・他支部にとらわれず、仲間づくりや情報共有の場として有意義な時間を過ごすことができました。青年部でできた仲間とは今でも情報交換を行い、良い結果も悪い結果もみんなでき共有できることに大きなメリットを感じています」と話してくれた良治さん。

良治さんは約10年前に作業の省力化を目的に水稲直播栽培を始めました。「直播栽培を始めた当初は、栽培技術も確立されていなかったため、苦労したこともありましたが、同じ地域で直播栽培を行っている仲間が多かったため、情報交換を頻繁に行い、課題点を改善して、直播栽培を始めて3年目でようやく成果が始めました」

さらに、今年からはさらなる作業の省力化を目指し、GPSを搭載したトラクターを活用しています。今まではトラクターにGPSを搭載するのに高額な費用を要していましたが、ここ数年で価格が安価になったことから、所持しているトラクター全てにGPSを搭載し、自動操舵システムを活用しています。自動操舵システムの導入により、大区画の長い直線を真っすぐ走行してくれるので、農地に余すことなく作物を栽培することが可能です。スマート農業が今後さらに進化することで、いずれはボタニクで無人で作業を行うトラクターを導入したいと考えています。そして、農地面積をさらに拡大させて大規模農業経営を行っていききたいです」と今後の抱負について話してくれました。

岩見沢市北村豊正

こにしよしはる
小西良治さん(42歳)